

日本語による
近代ギリシャ文学・語学文献目録(1)

竹島 俊之
橋 孝司

以下に掲げるのは日本語で書かれた、近代ギリシャ文学・語学に関する論文・翻訳(重訳も含む)の文献目録である。

「近代ギリシャ文学」は、12世紀頃から現れ始めるビザンツ民衆文学をもってその始まりとするのが一般的である。例えば、L.ポリティス『近代ギリシャ文学史』には、Modern Greek Literature、Νεοελληνική Λογοτεχνίαを表題に含む多くの文学史が、これらの作品をもってその第一章を記述し始めている事が註記されている⁽¹⁾。歴史的にはビザンツ中期から後期にあたるこの時期の作品を、同じ一つの Modern Greek Literature、Νεοελληνική Λογοτεχνία の名称でもって現代の作品とまとめあげることが出来るのは、近代ギリシャ文学の連続性を物語るものであり、その大きな特色の一つであろう。(日本語でこの時期から二十世紀までを「現代」と呼ぶことはためられるので、本稿では「近代」の名称を使うことにした。)

語学については、文学と対応させて、上記の時期の言語を「近代ギリシャ語」と見なすことにする。

文献目録はIとIIからなる。Iでは著者・翻訳者名が五十音順に並べられている。同一の人に複数の論文・翻訳がある場合、それらの配列は発表年代順とする。翻訳に対しては、出来る限り原題を付すようにした。IIではIに含まれた文学作品の翻訳が内容にしたがって分類されている。ただし、そのジャンル分類は、ポリティスの上掲書の章立てを利用したので、そこで確認できる作品に限った。このジャンル別分類によって、どの近代ギリシャの作家、詩人が日本人に好まれているのかを窺い知ることが出来るであろう。

(1) Πολίτης, Λ. (1985) Ιστορία της Νεοελληνικής Λογοτεχνίας. Αθήνα. p. 3.

略号:「広文紀要」 広島大学文学部紀要

「広教紀要」 広島大学教育学部紀要

I

秋山 健

(1967)訳:カザンザキス「その男ゾルバ」

Καζαντζάκης, Ν. Βίος και πολιτεία του Αλέξη Ζορμπά

『現代東欧文学全集2』恒文社 ◆森安(1967)、小田(1967)を含む

(1969)訳:カヴァフィス Καβάφης, Κ. 7 Poems

「老人」「不信」「アキレウスの馬」「イタケー」「帰れ」「肉体よ、思い出せ」「古い本の中に」

シケリアノス Σικελιανός, Α. 3 Poems

「聖なる道」「帰郷」「仏陀の弟子アザシヴァノの自殺」

セフェリス Σεφέρης, Γ. 5 Poems

「私は大理石の頭像を手にもってめざめた」「時として君の血は」

「私の胸に傷がふたたび口を開く」「流浪者の帰郷」「ヘレネ」

『世界詩人全集23 現代詩集Ⅳ』新潮社

荒木英世

(1986)『エクस्प्रेस現代ギリシア語』白水社

(1990)『現代ギリシア語の入門』白水社

飯豊道男

(1977)「ギリシア」『世界の民話(4)東欧1』ぎょうせい

◆「羊飼いとへび」「マルーラ」「ミュルシーナ」等の民話7篇

Megas, G. (ed.) *Griechische Volksmärchen* (1965)

池澤夏樹

(1979)訳:エリティス「快晴」Elytis, O. *Aithries*

ガッツォス「アモルゴス」Gatsos, N. *Amorgos*

『世界の文学37現代詩集』集英社

(1979-82)訳:「カヴァフィス全詩-訳と注釈の試み(1)-(16)」『現代詩手帖』

思潮社 Καβάφης, Κ. 105 poems ◆以下の105篇を収録

(1979) 9月号 pp.196-204「町」「イタケー」、10月号 pp.176-181「壁」

「アキレウスの馬」「祈り」「サルベードーンの葬儀」

(1980) 2月号 pp.150-154「蠟燭」「第一段」「老人の魂」「オオイナル拒否ヲナシタル者」

「中断」「窓」「テルモピュライ」、3月号 pp.

180-184「約束違反」「蛮族を待ながら」「声」、4月号 pp.168-173

「欲望」「トロイ人」「デーメートリス王」「ディオニュソス群像」
「単調」「足音」、5月号 pp.160-166「あの男だ」「サトラップ領」
「三月十五日」「ことの決着」「ティアナの彫刻家」「神がアントニ
ウスのもとを去る」「イオニア風」、6月号 pp.154-159「ブトレマイ
オス朝の栄光」「危険」「ヘレネスの友」「ヘロデス・アッティクス」
「アレクサンドリアの王たち」、7月号 pp.152-158「戻ってこい」「教
会にて」「稀有のこと」「できるかぎり」「非売品」「わたしは行っ
た」「文法学者リシアスの墓」「エウリオノスの墓」「シャンデリア」
「はるか昔」、10月号 pp.180-187「賢者は将に起らむとするところを知
る」「テオドトス」「カフェの入口にて」「彼は誓う」「一夜」「朝
の海」「描かれしもの」「オロフェルネス」

(1981) 1月号 pp.148-154「マグネシアの戦い」「マヌエル・コムネノ
ス」「セレウキデスの不興」「よみがえる時」「路上にて」「エンデ
イミオンの像の前にて」「オスロエネの町にて」「通過」、2月号 pp.
116-122「六一〇年に二十九歳で死んだアンモネスのために」「神々の
一人」「夕刻」「悦楽」「イアセスの墓」「見つめすぎて」「イグナ
ティオスの墓」、4月号 pp.192-200「1903年の日々」「カエサリオ
ーン」「肉体よ、思い出せ」「ラネースの墓」「ネロの命数」「アレク
サンドリアからの使者」「アリストブーロス」、6月号 pp.170-177
「港に」「アレクサンドリアの人アイミリアノス・モナエ」「九時以
来」「その家の外」「隣のテーブル」「午後の太陽」「居を定める」
「ヘブライ民の(紀元五〇年)」、8月号 pp.150-157「イメノス」「船
の上で」「デーメートリオス・ソーテール」「まことみまかれしや」
「シドンの若者たち」「陰が訪れる」、10月号 pp.154-159「ダレイオ
ス」「アンナ・コムネナ」「亡命したビザンティンの一貴族が詩を作
る」「そのはじまり」「アレクサンドロス・バラスの寵児」

(1982) 2月号 pp.137-143「コマゲネの詩人イアソン・クレアンドルー
の憂鬱」「デマラトス」「芸術に託した」「高名な哲学者の学校から」
「ぶどう酒鉢の職人」「アカイア同盟のために戦った人々」「アンティ
オコス・エピファネスにむかって」

(1982) 訳:ザランブーカ『王さまのリンゴの木』ほるぷ出版

Zarambouka, S. *The king's apple tree.*

(1987)『ギリシアの誘惑』書肆山田

浮田三郎

- (1980)「現代ギリシア語の法の問題-特に接続法に関して-」
『ニダバ』9, pp.41-50
- (1983)「現代ギリシア語の統語構造の一考察-主に単文の語順に関して-」
『言語学論集 関本至先生古稀記念論文集』pp.21-49
- (1987)「主語省略-日本語・現代ギリシア語対照研究」
『ニダバ』16, pp.10-18
- (1988a)「日本語と現代ギリシア語(方言)の諺対照比較研究-諺にみられる
素材を中心に-」『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』
pp.59-64 広島大学教育学部
- (1988b)「日本語と現代ギリシア語(方言)の諺対照比較研究(2)-素材「女」
の現れる諺を中心に-」『広教紀要』2/37, pp.301-309
- (1989a)「日本語と現代ギリシア語(方言)の諺対照比較研究(3)-素材「水」
の使われたる諺を中心に-」『留学生日本語教育に関する理論的・
実践的研究』pp.9-18. 広島大学教育学部
- (1989b)「日本語とギリシア語の諺対照比較研究(4)-諺の中に使用されたる
素材「動物」(1)-」『広教紀要』2/38, pp.287-293
- (1989c)「現代ギリシア語の諺についての一考察-素材「動物」が使われて
いる諺について-」『プロビレア』1, pp.9-19
- (1989d)訳:セフェリス「溜め池」『プロビレア』1, pp.67-71
Σεφέρης, Γ. Η στέρνα
- (1990a)訳:セフェリス「ギムノベディア」『プロビレア』2, pp.56-60
Σεφέρης, Γ. Γυμνοπαϊδεία
- (1990b)「現代ギリシアの諺にみる女性」『日本ギリシャ協会会報』52.

大井一徹

- (1987)『ポケット現代ギリシャ語会話』 大学書林

岡本浜江

- (1988)訳:ペトロビッツ「弟たちよ-戦火の中のギリシャで-」 佑学社
Petrovits-Andrutsopulu, L. *The little brother.*
- (1990)訳:ペトロビッツ「ぼくたち五人家族」 佑学社
Petrovits-Andrutsopulu, L. *A home for five.*

小沢俊夫

- (1978)訳:「ギリシア諸島」『世界の民話(13)地中海』 ぎょうせい

◆「へび」「三つ目男」「王さまと賢い王子」等の民話14篇
Farlinger, F. (ed.) *Inselmärchen des Mittelmeeres* (1960)

小田実

(1964)訳:ピピザ「クレタ島へささぐ歌」『世界名詩集』あかね書房
(1967)「わたしの作品論」『その男ゾルバ:現代東欧文学全集2』恒文社

掛川恭子

(1970)訳:ゼイ「ヤマネコは見ていた」岩波少年少女の本13 岩波書店
Zeï, A. Wildcat under glass

片山敏彦

(1960)訳:パラムス「世界」「眼への頌歌」「ロマン・ロラン」
『世界名詩集大成15北歐・東欧』平凡社
Palamas, C. Le monde, Hymne aux yeux, Romain Rolland

河底尚吾

(1988)『現代ギリシャ語入門』泰流社

小池滋

(1970)訳:サマラキス「きず」世界ロマン文庫 筑摩書房

Σαμαράκης, A. Το Λάθος

(1987)訳:サマラキス「きず」創元社

Σαμαράκης, A. Το Λάθος

児玉操

(1982)訳:カザンザキス「キリスト最後のころみ」恒文社

Καζαντζάκης, N. Ο Τελευταίος πειρασμός

佐藤輝夫

(1936)『ギリシャ (10)近代ギリシャの独立と新興文学』

『世界文芸大辞典2』中央公論社

志田信男

(1984-7)訳:「ギリシアの現代詩I~X」詩誌『潮流詩派』潮流出版社

(1985/6)「現代ギリシア文学の背景-歴史と言語問題」

『東京薬科大学一般教育研究紀要』8, pp.49-57

- (1985a)「セフェリスとマクリヤニス(その1)」『ブラティア』7, pp.13-20
(1985b)「セフェリスとマクリヤニス(その2)」『ブラティア』8, pp.10-18
(1987/88)「セフェリスにおけるサラミスの意義-キプロスのサラミス(航海日誌III)をめぐって」『東京薬科大学一般教養研究紀要』9, pp.69-86
(1987a)「セフェリスとアイスキュロス」『日本ギリシャ協会会報』41
(1987b)「セフェリスとH.ミラー/L.ダレル -ミラー・ダレル往復書簡集を中心に-」『エーゲ海学会誌』1, pp.9-13
(1988)訳:『セフェリス詩集』土曜美術社

◆収録作品 Σεφέρης, Γ. 47 Poems, 1 Essay

「貝、雲」「転回点」「あなたはゆっくりと話した」「悲嘆にくれる少女」「自動車」「拒否」「冥府の仲間たち」「霧」「一日の調子」「打ち上げ花火」「押韻」「神話物語」「ギムノベディア」「俳句十六句」「航海日誌I」「航海日誌II」「一九四一年六月の日々」「後記」「KERK STR.OOST.」「PRETORIA, TRANSVAAL」「運命の姿」「アガバンソスに囲まれたストラティス・サラシノス」「つぐみ号」「航海日誌III」「アイアナバ、I」「夢」「女神の御名において汝を召喚する」「ベンテウス」「アテナイ人エウリピデス」「三つの秘密の詩」「ある外国の友への手紙」

解説(セフェリスのこと、現代ギリシア文学の背景、セフェリスとマクリヤニス)、セフェリス年譜を含む

- (1989a)「セフェリスのバイディア-幼少時代の父と子-」
『プロピレア』1, pp.1-8
(1989b)「アレクサンドリア人カヴァフィス-ギリシャ詩華集から生まれた孤独な現代詩人」『詩と思想、特集:小さな国の大きな詩人たち』
土曜美術社
(1991a)「セフェリスと女性-詩人におけるCurriculum Vitae Sexualis素描」
『プロピレア』2, pp.5-13
(1991b)「セフェリスと俳句」『俳句とエッセイ』12月号 牧羊社

清水茂

(1978)訳:カザンザキス『石の庭』読売新聞社

Καζαντζάκης, Ν. *Le Jardin des Rochers*

◆エレニ・カザンザキ「『石の庭』日本語版のための序」及び
訳者による詳細な「解説」を含む

鈴木敦也

- (1973)『ギリシヤ国立劇場来日記念日本語訳上演台本(アガメムノン、オイディプス王、オレステス)』日本文化財団
- (1979)『日常会話のためのギリシヤ語小辞典』
◆『日常会話のためのギリシヤ語小辞典』『現代ギリシヤ語彙集』『現代日希小辞典』の合本
- (1980)『現代ギリシヤ語基本語彙集-1700』◆八木橋正雄と共編
- (1981)『現代日希小辞典』◆バシリオス コラキアニティス、八木橋正雄と共編
- (1982a)『現代ギリシヤ語読本1 現代ギリシヤ語の語法めぐり』
◆八木橋正雄と共編
- (1982b)訳:セオトカス『魔人』*θεοτοκάς, Γ. Το Δαιμόνιο* ◆八木橋正雄と共訳
- (1989)訳:クツォヘラス『ギリシヤ精神』*Κουτσόχερας, Γ. Ελληνικά*
◆八木橋正雄と共訳 以上六篇はいずれも私家版

関本至

- (1952)「現代ギリシア語の正書法について」『天理大学学报』3/3, pp.81-99.
- (1954a)「現代ギリシア語の特徴とその発展傾向」『広文紀要』5, pp.262-278
- (1954b)「近代ギリシア語の語頭母音の脱落について」
『西洋古典学研究』2, pp.96-102.
- (1955)「ビザンティン文学序説」『広文紀要』7, pp.42-68
- (1956)「現代ギリシア語の完了形」『言語研究』30, pp.65-76
◆以上四篇は関本(1987)に再録
- (1957)書評: Δημητράκος, *Μέγα λεξικόν της Ελληνικής Γλώσσας*.
『西洋古典学研究』5, pp.213-216.
- (1958)書評: Hans Jacob Seiler, *L'aspect et le temps dans le verbe neo grec* 『言語研究』26/27, pp.128-136.
- (1960a)「近代ギリシア語における外来語」『広文紀要』17, pp.123-139
- (1960b)「ギリシアの言語地理学」『方言研究年報』3, pp.27-42
- (1963a)「現代ギリシアの言語問題-とくに『福音書事件』を中心に-」
『西洋古典学研究』11, pp.75-82 ◆以上三篇は関本(1987)に再録
- (1963b)「知られざる文学-現代ギリシア詩-」『毎日新聞』11月24日
◆関本(1989)に再録
セフェーリス Σεφέρης, Γ. 「拒否」 *Η άρνησις* 「溜め池」 *Η στέρνα*
- (1963c)「Analogyの基底となる形-その計量的考察の一事例-」

- 『広文紀要』22/3, pp.252-260
- (1964)「読書二巻」「広大言語」4, pp.98-102 ◆ 関本(1989)に再録
セフェーリス Σεφέρης, Γ. 「拒否」 Η άρνησις 「溜め池」 Η στέρνα
- (1965a)訳:カラガーツイス「霧のウォピンで」
『世界文学体系93 近代小説集3』筑摩書房
Καραγάτσης, Μ. Στο Γουόππιν με φογκ
- (1965b)「現代ギリシア語におけるトルコ語よりの借用語」
『広文紀要』25/2, pp.262-278. ◆ 関本(1987)に再録
- (1966)「現代ギリシア語における英語からの借用語について」
『広大言語』6, pp.1-8 ◆ 関本(1987)に再録
- (1967)「ギリシアの言語問題-純正語と民衆語-」
『毎日新聞』9月26日
- (1968a)「現代ギリシア語名詞句の構造」『広文紀要』28/2, pp.303-316
- (1968b)『現代ギリシア語文法』泉屋書店
- (1969)「現代ギリシア語の文法書と辞書」『学燈』66/2
- (1970)「キプロス島の言語-とくにその民衆詩を中心に-」
『方言研究年報』13, pp.79-88
- (1972a)「『ゆれ』の現象-現代ギリシア語の動詞1人称複数語尾を中心に-」
『広文紀要』31/2, pp.134-150 ◆ 以上三篇は関本(1987)に再録
- (1972b)「動詞の格支配について-現代ギリシア語を例として-」
『ニダバ』1, pp.45-47
- (1974)「辞書にないギリシア語」『ニダバ』3, pp.21-23 ◆ 関本(1989)に再録
- (1975)「現代ギリシア語への手引」『ニダバ』4, pp.41-45
- (1976)「現代ギリシア語における重叙表現」『広文紀要』35, pp.250-259
- (1978)「現代ギリシア語方言研究の現状」『日本の言語学6月報』大修館
◆ 関本(1987)に再録
- (1979)訳:「ギリシアの民話」『世界の民話9(ギリシア・トルコ・地中海)』
研秀出版◆「双子の兄弟」等9篇を取録 Pio, J. *Contes populaires grecs*(1879)、
Ρήγας, Γ. Α. *Σκιάθου λαϊκός πολιτισμός*(1962)、
Ιωάννου, Γ. *Μαγικά παραμύθια του Ελληνικού λαού*(1966)
- (1980)訳:『現代ギリシア短編小説選集』洪水社
◆ 収録作品
ウラホヤーニス Βλαχογιάννης, Γ.
「貧窮の果て」 *Της φτώχειας τα στερνά*
ミリヴィーリス Μυριβήλης, Στ.

- 「老人」 *Ο γέρος*
 アサーナス Αθάνας, Γ.
 「第四の男」 *Ο τέταρτος άντρος*
 パナヨトーブロス Παναγιωτόπουλος, Ι.Μ.
 「肖像画」 *Η προσωπογραφία*
 ハーリス Χάρης, Π.
 「血」 *Το αίμα*
 ヴェネージス Βενέζης, Η.
 「エーゲ海物語」 *Το παραμύθι του Αιγαίου*
 「サロニコスのひととき」 *Στιγμή του Σαρωνικού*
 セオトカース Θεοτοκάς, Γ.
 「1922年の記録」 *Χρονικό του 1922*
 ナーク Νάκου, Α.
 「生きるってこんなこと」 *Έτσι λοιπόν η ζωή μας;*
 「マケドニア」 *Μακεδονία*
 テルザーキス Τερζάκης, Α.
 「なぎ」 *Μηνεμία*
 「犠牲」 *Η θυσία*
 カラガーツィス Καραγάτσης, Μ.
 「雨の水」 *Το νερό της βροχής*
 「マンダリンのボタン」 *Το κουμπί του Μανταρίνου*
 「キャバレー<猫>のシャンデリア」
Ο πολυέλαιος του <Παπουτσωμένου Γάτου>
 ヴレターコス Βρεττάκος, Ν.
 「一人ずつ深淵の中へ」 *Ένας ένας στην άβυσσο*
 サマラーキス Σαμαράκης, Α.
 「肉」 *Η σάρξ*
 ヴァレータス Βαλέτας, Κ.
 「バスの中の会話」 *Κουβέντα στο λεωφορείο*
 「外套をとりちがえたならず者」
Ο παλιάνθρωπος που μπέρδευε τα παλτά
 (1981) 「スキアソス島の方言-現代ギリシア方言の一考察」
 『藤原先生古稀記念論集-方言学論集-』三省堂
 (1983) 「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」古田敬一編『レトリックと
 文体-東西の修辞法をたずねて-』丸善 pp.1-30 ◆ 関本(1989)に再録

(1985)「現代ギリシア文学とギリシア民族の歴史」

『ブラティア』10, pp.1-8 ◆ 関本(1987)に再録

(1986a)「カヴァーフィス覚書」「ももんが」30/12 ◆ 関本(1989)に再録

Καβάφης, Κ.

「蠟燭」Κεριά

「壁」Τείχη

「窓」Τα παράθυρα

「老人」Ένας γέρος

「老人たちの心」Η ψυχές των γερόντων

「わたしは出かけた」Επήγα

「戻ってこい」Επέστρεψε

「ネロの余命」Η διορία του Νέρωνος

「カイサリオン」Καισαρίων

「欲望」Επιθυμίες

(1986b)「スミルナの悲劇」「ブラティア」11 ◆ 関本(1987)に再録

カヴァーフィス Καβάφης, Κ.

「アカイア同盟のために戦った人々」

‘Τπερ της Αχαικής Συμπολιτείας πολεμήσαντες

ソロモース Σολωμός, Δ.

「ブサラー」Η καταστροφή των Ψαρρών

(1987)『現代ギリシアの言語と文学』 汲水社

(1989)『ギリシア散策』 汲水社 ◆ 「マクリヤーニス将軍とその二つの遺稿」等の論文及びエッセイを含む

(1991)「ヴィジノースについて」「プロピレア」2, pp.1-4.

高橋りえこ

(1990)「現代ギリシア語の関係詞 *pou* と *ο οποιος* の用法 -コイネーギリシア語と対照して-」『ニダバ』19, pp.43-52.

高松雄一

(1956)訳:セフェリス「アフリカゆりに埋れた船乗りストラティス」

Σεφέρης, Γ. Ο Στράτης θαλασσινός ανάμεσα στους αγαπανθούς

『秩序』6

(1979)訳:セフェリス「アフリカゆりに埋れた船乗りストラティス」

「アシネーの王」The king of Asine『世界の文学37現代詩集』集英社

竹島俊之

(1987)「ギリシャ語の連鎖詞の研究(1)」

『言語文化研究』13(広島大学総合科学部紀要V) pp.324-349

(1991)「現代ギリシャ語の瞬時態未来と継続態未来についての

一考察」『プロピレア』2, pp.12-27.

橘孝司

(1988)「中世ギリシャ語叙事詩『ディゲニス・アクリタス』における Comitative-Instrumentalの表現形式について」『ニダバ』17, pp.21-33.

(1989)「現代ギリシャ語の空間指示表現について」

『プロピレア』1, pp.57-66

(1990)「現代ギリシャ語の Instrumentalと Locative について」

『ニダバ』19, pp.36-42

(1991)「現代ギリシャ語における『移動の動詞』と『視点』との相関性」

『プロピレア』2, pp.28-40.

谷口勇

(1989)訳: フルムジア・ディス『ギリシャ文化史-古代・ヴィザンティン・現代-』而立書房 Χουρμουζιάδης, Γ.Α. *Cultura Greciei-Antică, Bizantină, Modernă.*

千葉亀雄

(1930)「現代ギリシア文学概観」『世界文学講座12 現代文学編(上)』新潮社

出淵博

(1979)訳: エリティス「検死解剖」『世界の文学37 現代詩集』集英社
Elytis, O. *Autopsy*

道家忠道

(1966)「アテネの歌声-現代ギリシャ小説集」世界革命文学選31

新日本出版社 ◆収録作品

カスターナーキス「タツソス・タスーリス」「モネステエのおやじ」
コルナーロス「ステフォス隊長」「マロ・バタリヤー」、ワールナリス「つぐみの歌」、カサンザーキ「何物も彼らをわけることな

き世界」、アレキサンドロプロス「外国兵」、ハジース「アテネの歌声」、ナクー「小猫」、アレキシーウ「少年フランセスコス」シゲーロス「ジーストモ村の死神の祝祭」、ルデーミス「名人」、アキシオーチ「墓」、ウェネーシス「アンチゴーン」、グリゴリス「気違い小僧」、バナヨトプロス「恐怖の花」、アレキシーウ「忘恩がこの世のむくい」、レワーンタス「袋をかついだ老人」パロチリス「渡し舟」、パバントニーウ「馬」、カルカウイーツァス「海の正義」

Καστανάκης, Θ. Βάρναλης, Κ. Καζαντζάκη, Γ. Χατζής, Δ.
Νάκου, Α. Λουντέμης, Μ. Αξιόπη, Μ. Βενέζης, Η. Γρηγόρης, Γ.
Παναγιωτόπουλος, Ι. Μ. Παπαντωνίου, Ζ. Καρκαβίτσας, Α. and others
Antigone lebt (1961)

Das Mädchen mit dem Mond in der Hand (1965)

徳永康元

- (1960)「現代ギリシアの文学」『玉川百科大辞典 16 西洋文芸』
(1965)「(近代ギリシヤ文学収録作品への)解説」『世界文学大系 93
近代小説集 3』筑摩書房 ◆関本(1965), 森安(1965)参照

中井久夫

- (1984)『オジッセアス・エリテイス「初期詩集」など』名谷書房
◆『中井久夫著作集 3』(1985)の付録 *Οδυσσέας Ελύτης*
(1985a)訳:カヴァフィス「野蛮人を待つ」「みすず」292, pp.25-27.
Καβάφης, Κ. Περιμένοντας τους βαρβάρους.
(1985b)訳:カヴァフィス「神アントニウスを見捨てたもう」「みすず」294,
pp.29-31 *Καβάφης, Κ. Απολείπειν ο θεός Αντώνιον*
(1985c)訳:カヴァフィス「イオニア」「身体よ忘れるな」「みすず」295,
pp.25-27.
(1985d)訳:エリテイス「エーゲ海」「みすず」296, 29-33.
(1985e)訳:エリテイス「狂えるザクロの木」「みすず」298, 31-34
(1985f)訳:セフェリス「眠り」「みすず」299, 28-30.
(1985g)訳:セフェリス「アルゴナウトの人たち」「みすず」300, 24-26.
(1985h)訳:E.M.フォースター「カヴァフィス全詩集」「みすず」301, 20-28.
(1985i)訳:『現代ギリシヤ詩選』みすず書房
◆収録作品

カヴァフィス Καβάφης, K. 56 Poems

「壁」「祈り」「大いなる拒絶をなせし者」「窓」「テルモビュレ」「野蛮人を待つ」「憶れ」「声」「デメトリオス王」「単調」「足音」「市」「総督領」「イオニア」「三月十五日」「神アントニウスを見捨てたもう」「イタカ」「愛希家」「アレクサンドリアの王たち」「帰ってくれ」「教会にて」「せめて出来るだけ」「店のためには」「はるかな昔」「朝の海」「しかし賢人はまさに起ころうとすることを認知する」「テオドトス」「オルフェルネス」「マヌエル・コムニノス」「街路にて」「イグナチオスの墓」「詩人アンモネス、六一〇年没、享年二十九歳に」「彼等の神々の一柱」「宵闇」「アチュルの月に」「カイサリオン」「忘れるな、身体よ」「ネロの生命線」「九時から」「午後の日射し」「船上にて」「亡霊たちを招く」「ダレイオス王」「名哲学者の学校出」「小アジアの田舎にて」「さるギリシャ大植民地にて、紀元前二百年」「紀元前二百年」「ユリアノスと神秘」「精神の成長のためには」「一九〇三年九月」「一九〇三年十二月」「アントニウスの最後」「人知れぬもの」「ギリシャより帰郷する」「亡命者たち」「半時間」

リツオス Ρίτσος, Γ. 20 Poems

「単純性の意味」「顔」「夏」「いつの日か、おそらく」「理解」「ミニチュア」「三幅対」「幼年時代-回復期」「忘れられていた優しさ」「孤独な業」「いつの日かの休日」「見知らぬ部分」「罪」「屈服」「宵」「軽やかさ」「残骸」「仕事を果たす」「井戸のまわりで」「陶工」

エリティス Ελύτης, Ο. 20 Poems

「エーゲ海」「七つの夜想曲」「記念日」「エレニ」「日の青春」「サントリーニ島賛歌」「岩の小舟溜り」「青い記憶の歳」「エーゲ海の憂愁」「ポイオチアの形象」「狂えるザクロの木」「その夜をもはや知らぬ」「夏の身体」「艶やかな日、声のホラ貝」「コリントの太陽を飲む」「私は愛する名に生きた」「マルメロの林にたゆとう風」「日がな一日野を歩いた」「石と血と鉄とで」「アクシオン・エステイ、創世記より」

セフェリス Σεφέρης, Γ. 11 Poems

「愛の声」「アルゴナウトの人たち」「眠り」「もう少し先に行けば見えるよ」「過酷な瞬間と瞬間との」「海の洞の中には」

「海を捜さなくていい」「栓をひねると出て来る温水は」「ジャ
スミン」「カリグラフィー」「夢」

シケリアノス Σικελιανός, A. 1 Poem

「バーン」

◆各詩人と全ての収録作品についての解説及び文献を含む

(1988)訳:『カヴァフィス全詩集』 みすず書房

Καβάφης, Κ. Complete Poems

(1990)訳:エリティス「アルバニア戦線に倒れた小尉にささげる悲歌」

『みすず』354, pp.14-42 Ελύτης, Ο. Άσμα ηρωικό και πένθιμο
για τον χαμένο ανθυπολοχαγό της Αλβανίας

(1991a)訳:リッツォス「括弧」 みすず書房

「括弧Ⅰ」「括弧Ⅱ」「遠かなる」

Ρίτσος, Γ. Παρένθeseis I, II, Το μακρινό

◆「リッツォス略伝」「参考文献」を含む

(1991b)訳:『カヴァフィス全詩編(第二版)』 みすず書房

◆中井(1988)の改訂・未刊詩篇増補版

(1991c)訳:リッツォス「カヴァフィスにささげる十二詩」

『みすず』359, pp.23-34

中山知子

(1976)訳:ゴレモス「金のゆりのひみつ」 あかね書房

Goulimis, A. *The mystery of the golden lily.*

那谷敏郎

(1976)『紀行ビザンチン史』 新潮選書

西村太良

(1990)「中世・近世ギリシア文学」「ディゲニス・アクリタス」「モレア
年代記」「コルナロス」「コライス」「ホルタツイス」の項目

『増補改訂新潮世界文学辞典』 新潮社

バシリオス コラキアニティス

(1979)『現代日希小辞典』 ◆八木橋(1979b)を参照

福田千津子

- (1982)「特集外国語のすすめ・現代ギリシャ語」『言語』五月号 p.84-85
 (1985)『現代ギリシャ語入門』 大学書林
 (1986)『現代ギリシャ語会話練習帳』 大学書林
 (1987)『現代ギリシャ語動詞変化表』 大学書林
 (1988a)『現代ギリシャ語基礎 1500語』 大学書林
 (1988b)『現代ギリシャ語常用 6000語』 大学書林

藤田春子

- (1987)訳：『ヤニス・リッツオス詩選集 I』 私家版 Ρίτσος,Γ.

松原幸一

- (1983)「ギリシャ語における不定法、及び分詞構文の変遷」『言語学演習'83』
 pp.184-192. 東京大学文学部言語学研究室
 (1985)「ギリシャ語の関係節の通時的側面」『東京大学言語学論集'85』
 pp.93-104

松本克己

- (1988)「近代ギリシア語」『言語学大事典第1巻』 p.1424-1427 三省堂

三浦正道

- (1974)訳：セフェリス Σεφέρης,Γ
 「海中の瓶」 *Μποτίλια στο πέλαγο*
 『ふあず』3 ばあぶる・ふいるむ出版
 (1975)訳：セフェリス Σεφέρης,Γ
 「アテナイ人エウリピデス」 *Ευριπίδης, Αθηναίος*
 「否定」 *Άρνηση*
 『ふあず』4 ばあぶる・ふいるむ出版
 (1978)訳：『近代ギリシャ詩集』 蝸牛社

◆収録作品

- ソロモス Σολωμός,Δ.
 「自由への頌歌」 *Ύμνος εις την ελευθερίαν*
 パラマス Παλαμάς,Κ.
 「ニケ」 *Η Νίκη*
 「どこからかそれは発掘された」 *Από κάπου τα ξέθαφα*
 マビリス Μαβίλης,Λ.

- 「忘却の川」 *Αθήνη*
「オリーブの木」 *Ελιά*
カバアフィス *Καβάφης, Κ.*
「壁」 *Τείχη* 「窓」 *Τα παράθυρα*
「街」 *Η πόλις* 「九時から」 *Απ'τες εννιά*
ババントニウ *Παπαντωνίου, Ζ.*
「悲しい日没」 *Αυπημένα δειλινά*
「老いたる羊飼い」 *Ο γεροβοσκός*
スキピス *Σκίπης, Σ.*
「おお、うるわしきアテネ」 *Ω Αθήνα γλυκιά!...*
「きみはぼくを思い出さう」 *Θα με θυμάσαι...*
「一九四二年聖金曜日」 *Μεγάλη Παρασκευή του 1942*
カザンツァキ *Καζαντζάκη, Γ.*
「罪障深きもの」 *Αμαρτωλό*
セフェリス *Σεφέρης, Γ.*
「港は古く」 *Είναι παλιό το λιμάνι...*
「海中の瓶」 *Μποτίλια στο πέλαγο*
「アテナイ人エウリビデス」 *Ευριπίδης, Αθηναίος*
「きみはゆっくり話した」 *Αργά μιλούσες*
「否定」 *Άρνηση*
「うた」 *Ρίμα*
バナヨトブロス *Παναγιωτόπουλος, Ι.Μ.*
「晴れた日」 *Ευδία*
「死せる父のうた」 *Το τραγούδι του νεκρού πατέρα*
カバジアス *Καββαδίας, Ν.*
「苦惱の出発」 *Μαl du depart*
「霧」 *Ομίχλη*
「水先案内人ナジル」 *Ο πιλότος Νάγκελ*
「近代ギリシャ文学について」、収録詩人の解説、詳細な参考文献を含む

三原幸久

(1979)訳：「キプロスの民話」「世界の民話9(ギリシア・トルコ・地中海)」
研秀出版 ◆「賢い田舎娘」「呪われた運命」「神の御心」
Dawkins, R.M. *Modern Greek Folklores*(1953)

森安達也

- (1965)訳:ミリヴィリス「ゴルゴン姉妹」 Μυριβήλης, Στ. Οι γοργόνες
『世界文学体系 93 近代小説集 3』 筑摩書房
- (1967)「カザンザキスの人と文学」「その男ゾルバ:現代東欧文学全集 2」
恒文社 ◆秋山(1967)参照
- (1983)「世界の詩・ギリシャ」『言語』六月号 pp.4-5
◆カヴァフィス「町」 Καβάφης, Κ. Η πόλις
- (1990)「近代ギリシア文学」「アシハリス」「ソロモス」「カルヴォス」
「ヴァラオリティス」「バラマス」「シケリアノス」「カヴァフィス」
「セフェリス」「エリティス」「ババジアマンディス」「ミリヴィリ
ス」「プレヴェラキス」「カザンザキス」「ヴェネジス」の項目
『増補改訂新潮世界文学辞典』新潮社

八木橋正雄

- (1978)『現代ギリシャ語のアウトライン』
- (1979a)『現代ギリシャ語語彙集』
- (1979b)『現代日希小辞典』 ◆バシリオス コラキアニティスと共編
- (1979c)『日常会話のためのギリシャ語小辞典』
- (1980a)『現代希日小辞典』
- (1980b)『現代ギリシャ語基本語彙集-1700』 ◆鈴木敦也と共編
- (1981a)『現代ギリシャ語動詞活用表』
- (1981b)編訳:ルーセル『現代ギリシャ口語文学記述文法』 Roussel, L.
Grammaire descriptive du roméique littéraire.(E.de Boocard.
1922)
- (1981c)『現代希日小辞典』
- (1982a)『現代ギリシャ語読本 1現代ギリシャ語の語法めぐり』 ◆鈴木敦也
と共編
- (1982b)訳:セオトカス「魔人」 Θεοτοκάς, Γ. Το Δαιμόνιο ◆鈴木敦也と共訳
- (1983)編訳:トリアンダフィリディス『現代ギリシャ語規範文法-基本的規
則集』 Τριανταφυλλίδης, Μ. Νεοελληνική γραμματική (Ο.Ε.Δ.Β.
1976) ◆以上十一篇はいずれも私家版
- (1984)『現代ギリシャ語の基礎』 大学書林
- (1985)『現代ギリシャ語キプロス方言の研究』
- (1989)訳:クツォヘラス「ギリシャ精神」 Κουτσόχερας, Γ. Ελλαδικά
◆鈴木敦也と共訳 以上二篇はいずれも私家版

山口喜雄

(1985)「現代ギリシャ語とその学習書・辞書」『言語生活』400 筑摩書房

山室静

(1960)「北欧・東欧詩概説」『世界名詩集大成15』平凡社

◆片山(1960)参照

渡辺栄一郎

(1970)訳:バシリコス『Z』角川書店

Βασιλικός, Β. Ζ. Φανταστικό ντοκιμαντέρ ενός εγκλήματος.

渡辺金一

(1978)訳:ベック「十四世紀のギリシア民衆文学立脚地点確定の一つの試み」『ビザンツ世界の思考構造』岩波書店

Beck, H.G. *Die griechische volkstümliche Literatur des 14. Jahrhunderts.*

『ラールス世界文学事典』

河盛好蔵監修 角川書店

「キリスト教の文学-ビザンチン文学」 「北ヨーロッパと中央ヨーロッパの文学-ギリシャ文学」

II

1. コンスタンチノーブル陥落以前の文学

(Η λογοτεχνία πριν από την Άλωση)

2. コンスタンチノーブル陥落以降の文学

(Η λογοτεχνία μετά την Άλωση)

3. クレタ文学の最盛期 (Η λογοτεχνική ακμή στην Κρήτη)

4. 十八世紀 (Ο δέκατος όγδοος αιώνας)

5. 民衆歌謡 (Το δημοτικό τραγούδι)

6. 革命前の数十年 (Οι δεκαετίες πριν από την Επανάσταση)

◆以上の六章については翻訳なし

7. ソロモス (Σολωμός)

- ソロモス (Σολωμός, Δ.) 関本 (1986b) 三浦 (1978)
8. カルヴォス・イオニア派とヴァラオリティス
(Ο Κάλβος·Η Εφτανησιώτικη σχολή και ο Βαλαωρίτης)
9. グリシャ国家 (Το ελληνικό κράτος) ◆ 翻訳なし
10. 1880年代・新アテネ派 (Η γενιά του 1880. Νέα Αθηναϊκή σχολή)
パラマス (Παλαμάς, Κ.) 片山 (1960) 三浦 (1978)
11. 1880年以降の散文 (Η πεζογραφία μετά το 1880)
ウラホヤニス (Βλαχογιάννης, Γ.) 関本 (1980)
カルカヴィッツァス (Καρκαβίτσας, Α.) 道家 (1966)
12. パラマスの時期及びそれ以降の詩
(Η ποίηση γύρω και ύστερα από τον Παλαμά)
- アサナス (Αθάνας, Γ.) 関本 (1980)
マヴィリス (Μαβίλης, Α.) 三浦 (1978)
パバンドニウ (Παπαντωνίου, Ζ.) 道家 (1966) 三浦 (1978)
スキピス (Σκίπης, Σ.) 三浦 (1978)
13. カヴァフィス、シケリアノス。1930年迄の詩
(Καβάφης, Σικελιανός. Η ποίηση ως τα 1930)
- カヴァフィス (Καβάφης, Κ.) 秋山 (1969) 三浦 (1978) 池澤 (1979-82)
森安 (1983) 中井 (1985a-c, i) (1988) (1991b)
関本 (1986a, b) (1989)
- シケリアノス (Σικελιανός, Α.) 秋山 (1969) 中井 (1985)
ヴァルナリス (Βάρναλης, Κ.) 道家 (1966)
14. 今世紀初めの数十年 (Οι πρώτες δεκαετίες του αιώνα μας)
- パナヨトプロス (Παναγιωτόπουλος, Ι.Μ.) 道家 (1966) 三浦 (1978)
関本 (1980)
- ハリス (Χάρης, Π.) 関本 (1980)
- カザンザキス (Καζαντζάκης, Ν.) 秋山 (1967) 三浦 (1978)
清水 (1978) 児玉 (1982)
- カザンザキ (Καζαντζάκη, Γ.) 道家 (1966) 三浦 (1978)
15. 1930年代・詩。(Η γενιά του 1930. Ποίηση)
- セフェリス (Σεφέρης, Γ.) 高松 (1956) (1979) 関本 (1963b) (1964) (1989)
秋山 (1969) 三浦 (1974) (1975) (1978)
中井 (1985f, g, i) 志田 (1988)
浮田 (1989d) (1990a)
- リツォス (Ρίτσος, Γ.) 中井 (1985i) (1991a, c) 藤田 (1987)

- | | |
|---|---|
| エリテイス (Ελύτης,Ο.) | 池澤 (1979) 出淵 (1979)
中井 (1985d,e,i)(1990) |
| ヴレタコス (Βρεττάκος,Ν.) | 関本 (1980)(1989) |
| ガッツオス (Γκάτσος,Ν.) | 池澤 (1979) |
| カヴァジアス (Καββαδάς,Ν.) | 三浦 (1978) |
| 16.1930年代・散文・(Η γενιά του 1930. Πεζογραφία) | |
| ミリヴィリス (Μυριβήλης,Στ.) | 森安 (1965) 関本 (1980) |
| ヴェネジス (Βενέζης,Η.) | 道家 (1966) 関本 (1980) |
| セオトカス (Θεοτοκάς,Γ.) | 関本 (1980) 鈴木・八木橋 (1982b) |
| ナーク (Νάκου,Α.) | 道家 (1966) 関本 (1980) |
| アレキシウ (Αλεξίου,Β.) | 道家 (1966) |
| テルザキス (Τερζάκης,Α.) | 関本 (1980) |
| パロリテイス (Παρορίτης,Κ.) | 道家 (1966) |
| カラガツイス (Καραγάτσης,Μ.) | 関本 (1965a)(1980) |
| カスタナキス (Καστανάκης,Θρ.) | 道家 (1966) |
| アキシオティ (Αξιώτη,Μ.) | 道家 (1966) |
| 17.戦後の詩と散文 (Μεταπολεμική ποίηση και πεζογραφία) | |
| サマラキス (Σαμαράκης,Α.) | 小池 (1970)(1987) 関本 (1980) |
| ヴァレタス (Βαλέτας,Γ.) | 関本 (1980) |
| ハジス (Χατζής,Δ.) | 道家 (1966) |
| ルデミス (Λουντέμης,Μ.) | 道家 (1966) |
| グリゴリス (Γρηγόρης,Γ.) | 道家 (1966) |
| ヴァシリコス (Βασιλικός,Β.) | 渡辺 (1970) |

以上は筆者達の調べあげた限りの文献を集めたものに過ぎず、重要な作品が漏れているのではないかと恐れている。特に、各大学紀要に掲載された論文、私家版の翻訳等が相当数有るのではないかとと思われるが、それらについては、今後の続編により補っていききたい。識者の方々に御尽力頂ければ幸いである。

(本稿を作成するにあたって多くの方々に御協力頂いた。とりわけ、御面倒な調査を快く引き受けて下さった八木橋正雄、志田信男、中井久夫、高橋りえこの各氏には心よりお礼申し上げます。)